

イネゾウモドキ属に関する知見

森 本 桂⁽¹⁾
遠 田 暢 男⁽²⁾

イネゾウモドキ属 *Eteophilus* (= *Dorytomus*) はゾウムシ科のイネゾウ亜科 Notarinae に属し、いままでに 76 種が記載されていて、旧北区と新北區に分布し、いずれも *Populus* および *Salix* 属植物を加害することが知られている。わが国の種については河野 (1930) の分類学的研究があるのみで、生態に関しての報告は全くなかった。

著者らはこの論文で日本産の 8 種を扱い、加害植物や周年経過などを初めて明らかにした。このうち 2 種はこの論文で記載される新種で、さらに 2 種は日本から初めて記録されるものである。

この研究を発表するにあたり、ご指導をえた林業試験場藍野祐久保護部長、日塔正俊昆虫科長、同北海道支場余呂昌資保護部長、および九州大学安松京三教授に厚く感謝する。

Genus *Eteophilus* BEDEL, 1886

= *Dorytomus* STEPHENS, 1831 (Type-species : *Dorytomus petax* SAHLBERG)

Type-species : *Curculio vorax* F. = *Curculio longimanus* FORST

この属は *Dorytomus* という名で扱われたことが多く、河野広道博士もこの名で日本産の種をまとめている。HOFFMANN (1958) は属の模式種を検討し、それまでの *Dorytomus* に *Eteophilus* を用い、*Lepidonotaris* を *Dorytomus* の異名として整理した。

加害植物は 76 種のうち 33 種について報告があり、日本産の種と同様、いずれもヤナギ科の *Salix* および *Populus* 属の花芽を幼虫が食害し、一部の種は虫えいに潜入する。これを表に示せば次のとおりである。

種 名	分 布	加 害 植 物
<i>affinis</i> PAYKULL	ヨーロッパ、シベリヤ、アルゼリヤ	<i>Populus nigra</i> , <i>Salix aurita</i> ?
<i>dejeani</i> FAUST	ヨーロッパ	<i>Populus tremula</i> , <i>P. alba</i>
<i>dorsalis</i> LINNÉ	ヨーロッパ	<i>P. canescens</i> , <i>Salix</i> spp.
<i>etrofuensis</i> KÔNO	日本、千島	<i>Salix</i> spp.
<i>filirostris</i> GYLLENHAL	ヨーロッパ	<i>Populus nigra</i> , <i>P. alba</i> , <i>P. pyramidalis</i>
<i>flavipes</i> PANZER	ヨーロッパ、シベリヤ	<i>Salix</i> spp.
<i>hirtipennis</i> BEDEL	ヨーロッパ、シベリヤ、日本	<i>Salix</i> spp.
<i>indiferens</i> CASEY	北アメリカ	<i>Populus grandidentata</i>
<i>longimanus</i> FORSTER	ヨーロッパ、シベリヤ、北アメリカ	<i>Populus nigra</i> , <i>P. pyramidalis</i>
<i>maculipennis</i> PAYKULL	日本	<i>Salix</i> spp.
<i>majalis</i> PAYKULL	ヨーロッパ	<i>Salix</i> spp.
<i>melanophthalmus</i> PAYKULL	ヨーロッパ、アルゼリヤ	<i>Salix</i> spp.
<i>minutus</i> GYLLENHAL	ヨーロッパ	<i>Populus alba</i>
<i>mucidus</i> SAY	北アメリカ	<i>Populus</i> sp.
<i>nebulosus</i> GYLLENHAL	ヨーロッパ、シベリヤ	<i>Populus alba</i> , <i>P. nigra</i> , <i>P. virginiana</i>

種 名	分 布	加 害 植 物
<i>notaroides</i> KONO	日本	<i>Populus nigra</i>
<i>occalescens</i> GYLLENHAL	ヨーロッパ, シベリヤ	<i>Salix</i> spp.
<i>puberulus</i> BOHEMAN	ヨーロッパ	<i>Salix alba</i>
<i>rectinasus</i> MORIMOTO et ENDA	日本	<i>Salix</i> spp.
<i>roelofsi</i> FAUST	日本	<i>Salix</i> spp.
<i>rufulus</i> BEDEL	ヨーロッパ	<i>Salix</i> spp.
<i>salicinus</i> GYLLENHAL	ヨーロッパ	<i>Salix aurita</i> , <i>S. capraea</i>
<i>salicis</i> WALTON	ヨーロッパ	<i>Salix</i> sp.
<i>schoenherrri</i> FAUST	ヨーロッパ	<i>Populus nigra</i> , <i>P. pyramidalis</i>
<i>shikotanus</i> KONO	日本, 千島	<i>Salix</i> spp.
<i>squamosus</i> LECONTE	北アメリカ	<i>Salix</i> sp.
<i>subsimilis</i> BLATCHLEY et LENG	北アメリカ	<i>Salix</i> sp.
<i>taeniatus</i> FABRICIUS	ヨーロッパ	<i>Salix</i> spp.
<i>tortrix</i> LINNÉ	ヨーロッパ	<i>Populus tremula</i> , <i>P. pyramidalis</i>
<i>tremulae</i> PAYKULL	ヨーロッパ, シベリヤ	<i>Populus alba</i> , <i>P. tremula</i>
<i>urakoeae</i> MORIMOTO et ENDA	日本	<i>Populus pyramidalis</i>
<i>validirostris</i> GYLLENHAL	ヨーロッパ, シベリヤ, 樺太	<i>Populus pyramidalis</i>
<i>villosulus</i> GYLLENHAL	ヨーロッパ	<i>Salix cinerea</i>

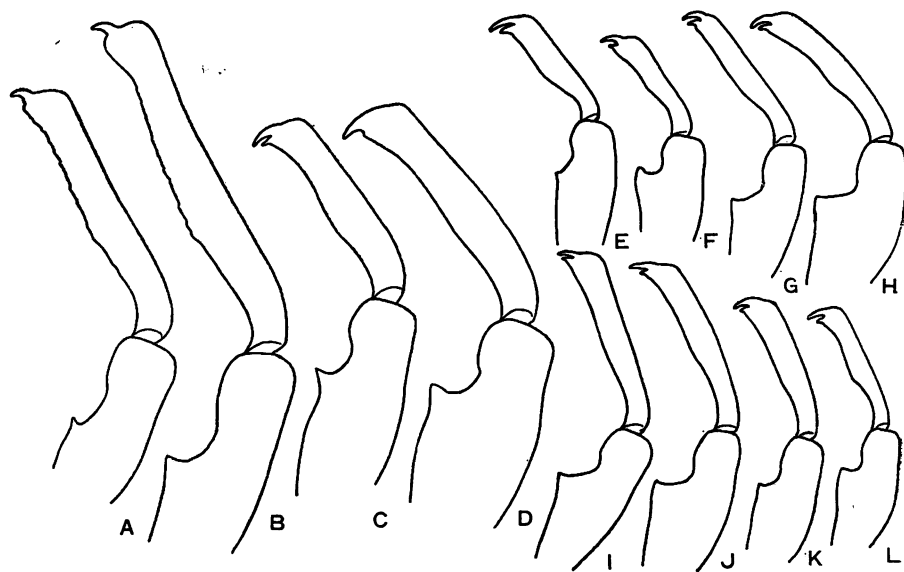
この属は ZUMPT (1933), HOFFMANN (1958) らによつて次の 4 亜属にわけられた。

- 1 : 前胸腹板前縁は中央で切れ込まないか, 切れ込みは不明りようで, 両側は隆起条で境されない…… 2
- 1' : 前胸腹板前縁は中央で深く切れ込み, その両側は隆起条で境され, 刺毛列は側面に達しない。翅鞘の鱗毛は単純 (日本にいない)。……………*Paradorytomus* ZUMPT, 1933
- 2 : 翅鞘は 1 種類の鱗毛に覆われる。…………… 3
- 2' : 翅鞘は 2 種類の鱗毛に覆われ, 1 種は寝ていて, 他は立つている。……………
…………… *Euolamus* REITTER, 1916 (= *Enolamus* HOFFMANN, 1958)
- 3 : 前胸腹板前縁の刺毛列は側面に達しない。……………*Praeolamus* ZUMPT, 1933
- 3' : 前胸腹板前縁の刺毛列は側面にまで達す。……………*Eteophilus* s. str. (= *Dorytomus* s. str.)

この亜属の区別点のうち, 前胸腹板前縁の刺毛列は♂♀で発達程度が異なるものもあり, また個体変異もあつて安定した特徴とはいえないようである。著者らは日本産の種について, ♂交尾器, 脛節端突起の発達状態などを詳しく比較して次の結果をえた。

1. *notaroides* 群 : ♂♀とも前脛節端突起は 1 つで, ♂交尾器内袋中央部に細毛が密生する。♂♀で, 吻, 触角, 前胸および肢に大きな違いがある。
2. *roelofsi* 群 : ♂の前脛節端突起は 1 つで, ♀には 2 つある。♂交尾器は内袋に小突起群があり, flagellum は非常に長い。
3. *maculipennis*—*hirtipennis* 群 : ♂♀の前脛節端突起は 2 つある。♂交尾器内袋に細毛または小突起群を欠き, flagellum は 3 つの部分からなる (*notaroides* と *roelofsi* 以外の種が含まれる。)

このことから明らかなように, 従来の亜属の分割は再検討の必要があり, 特に *Praeolamus* と *Eteophilus* の区別は困難であるので, この論文では日本産の種について亜属の分割を行なわなかつた。



第1図 前肢腿節と脛節

A, B: *notaroides*. C, D: *roelofsi*. E, F: *etorofuensis*.
 G, H: *shikotanus*. I, J: *maculipennis*. K, L: *hirtipennis*.
 A, C, E, G, I, K: ♀. B, D, F, H, J, L: ♂.

検 索 表

- 1: ♂の前胸は翅鞘よりも幅広い。♂♀とも前脛節端の突起は1つである。吻は点刻されるが溝と隆起条を欠く。体長6.0~6.5 (♀), 7.0~7.5 (♂) mm. *E. notaroides* (Kôno)
- 1': 前胸は♂♀同形で翅鞘より狭い。吻は点刻列または溝と隆起条がある。体長は6 mm を越えない。
 2
- 2: 翅鞘は一樣な鱗毛で覆われ、直立した長毛を欠く 3
- 2': 翅鞘は2種類の被毛があり、寝ている鱗毛のほかに、各間室に1列の直立長毛がある。体長3.5~4.0 mm *E. hirtipennis* (BEDEL)
- 3: 吻は基部から触角付着点に向かって狭くなり、最狭部は前頭と同幅。♂の吻は前頭と同一面でつらなり、♀では角をなす。被毛は細くまばらで斑紋をなさない。体色は黄褐色から赤褐色で、後胸腹板と触角球桿節は暗色をおびる。中胸腹板突起は強く膨れ、前方に向かって張りだす。体長5 mm 内外。
 *E. roelofsi* (FAUST)
- 3': 吻は両縁平行で前頭より幅広い。翅鞘には鱗毛による不明りような斑紋がある 4
- 4: 触角の第1中間節は幅の1.5倍の長さがある。吻は♂♀とも前胸と頭部を合わせた長さより著しく短い。体長2.7~3.2 mm *E. etorofuensis* (Kôno)
- 4': 触角第1中間節は幅の2倍以上の長さがある。体長は3.5 mm 以上 5
- 5: 吻は頭部と前胸を合わせた長さより短く、真直ぐで、前方に向かっている。中胸腹板突起の前縁は直

- 角状を呈している。体長 3.5 ~ 4.0 mm *E. shikotanus* (Kôno)
- 5' : 吻は、少なくとも♀では頭部と前胸を合わせた長さよりも長い。 6
- 6 : 吻はほとんど曲がらず、前下方に向かつている。中胸腹板突起は膨れない。体長 4.0 ~ 5.3 mm
..... *E. rectinasus* sp. nov.
- 6' : 吻は曲がり、下方に向かつている。中胸腹板突起は少なくとも♂で膨れ、前方に張りだす。 7
- 7 : 中胸腹板突起は強く膨れ、前方に強く張りだす。体色は一見して黒地に褐色の部分があるようにみえる。
体長 3.5 ~ 5.1 mm *E. urakoe* sp. nov.
- 7' : 中胸腹板突起は♀で膨れず、♂で膨れるが前縁は直角をなし、強く張りださない。体色は一見して褐色の地に黒い部分があるようにみえる。 体長 4.0 ~ 4.8 mm *E. maculipennis* (Roelofs)

1. *Eteophilus notaroides* (Kôno) ムネビロイネゾウモドキ

Dorytomus notaroides Kôno, Ins. Mats. IV (4) : 156, 1930 (Sapporo, ♀)

Dorytomus (*Dorytomus*) *notaroides* : ZUMPT, Kol. Rdsch. XIX : 88, 1933 (Japan, ♀)

Dorytomus (*Dorytomus*) *notaroides* : Kôno et MORIMOTO, Mushi 34 (2) : 84, 1960 (Hokkaido, ♂ ♀, figs.)

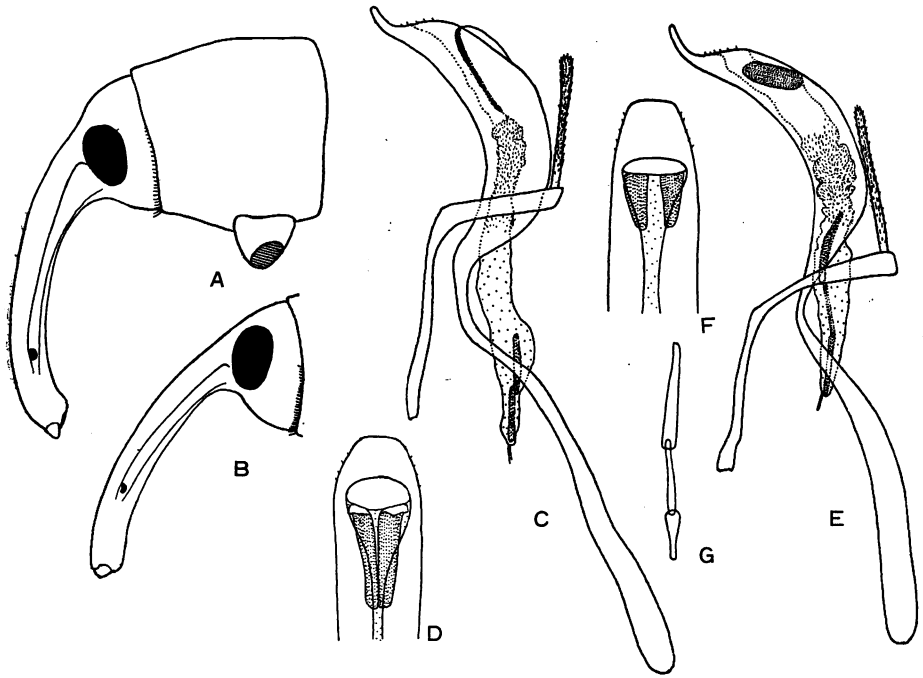
♂ ♀。赤褐色、吻と胸部腹面は黒褐色、一様に灰色鮮毛に覆われる。頭部は密に点刻され、前頭は吻と同幅で中央は圧せられる。吻は頭部と角をなして接し、点刻せられるが、各点刻は離れていて、縦溝をつくることはない、中央隆起条は不明りようでそれ以外に隆起条はない、♂の吻は♀よりも長い、吻は一樣に曲がり、先端近くで強く曲がる、触角溝は眼近くで幅広くなり、その上縁は眼の中央部より上に達す。前胸は♂♀で形が異なる。♂前胸は翅鞘よりも幅広く、基部から 1/4 の部分で最も幅広く、その点から前に向かつて両縁は平行かまたは弱く狭まり、先 1/4 の点で角をなして急に縊れる、背面は皺状に点刻され、中央は V 状に圧せられ、その両側は弱く膨れる。♀の前胸は翅鞘よりやや幅狭く、中央直後で最も幅広く、側縁は一樣に丸まり、背面はこの属の他の種と同様弱く盛り上がる。小楯板は舌状で長さと幅が等しく、翅鞘よりも高い。翅鞘は♂で基部の 2/3 は両縁平行、♀では先端から 1/3 の点で最も幅広い。♂♀とも肩から小楯板やや後方の点に向かつて斜めに浅く圧せられ、第 3 間室は♂♀とも多少隆起する。前胸腹板前縁は短い刺毛が側面まではえていて、♀ではやや著しい。♂の前翅基節は前胸の基部から 1/4 の、また♀では 1/3 の点にある。中胸腹板突起は梯形で長さと幅は等しく、後方に向かつて狭まり、強く膨れることはない。後胸腹板には弱い横皺がある。腿節は同属の他種と比較して膨れ方は弱く、齒状突起も小さい。脛節端突起は小さく、♂では後脛節に欠く。♂交尾器は内袋中央付近に細毛が密生し、骨片は 3 つの部分に分かれる。

体長 : 6.0 ~ 6.5 (♀), 7.0 ~ 7.5 (♂) mm (吻を除く)。

分布 : 北海道 (札幌付近)

調査標本 : Sapporo, 26. X. 1954, M. KONISHI leg., 2 ♂ 2 ♀ ; id., 1. VII. 1958, M. TAKAHASHI leg., 1 ♂ ; id., 16. X. 1958, Y. TAKENOUCI leg., 3 ♂ 5 ♀ .

原記載に使用した模式標本 (Sapporo, 13. VII. 1917, 1 ♀) は未熟な♀で、高橋三雄氏が 7 月 1 日に札幌で採集した 1 ♂ も未熟な個体であつた。このことから推定すると新しい成虫が羽化するのは 6 月から 7 月にかけてであろう。竹内恭博士と小西正泰博士のご教示によれば、成虫は秋の終わりのころポプラに産卵するということである。

第2図 *E. notaroides* と *dilaticollis* の♀頭部と♂交尾器

A, E, F, G: *notaroides*. B, C, D: *dilaticollis* (Shansi, China). A, B: Female head.
C—G: Aedeagus. G: sclerite of inner sac.

本種は蒙古と中国（山西省）に分布する *dilaticollis* FAIRMAIRE に酷似するが、これとの区別点と両種の図は Mushi 34 (2): 84, 1960 に示しておいた。♂交尾器もよく似ているが *dilaticollis* では先端近くで急に狭まり、内袋骨片は2つの部分からなり、開口部の骨板はより長いことで区別できる。

2. *Eteophilus roelofsi* (FAUST) アカイネゾウモドキ

Dorytomus Roelofsi FAUST, Bull. Mosc. : 89, 111, 1883 (Japan, 1 ♂ 2 ♀)

Dorytomus roelofsi: KÔNO, Ins. Mats. IV (4): 155, 1930 (Key, Honshu)

Dorytomus rufus Kôno (nec Say), Ins. Mats. IV (4): 155, 1930 (Sapporo, 3 ♂ 1 ♀)

Dorytomus japonicus ZUMPT, Col. Centr. Bl 6 (1): 39, 1932 (new name for *rufus* Kôno)

Dorytomus (Dorytomus) roelofsi: ZUMPT, Kol. Rdsch. XIX: 89, 98, 1933 (Key, redescription, *rufus* = *japonicus*)

Dorytomus logimanus (!) CHÛJÔ et Voss (nec Forster), Mem. Fac. Liberal Art & Education, Kagawa Univ. II (94): 10 (Berg Akashi, Ehime, misidentification)

♂♀。黄褐色から赤褐色、後胸腹板と触角球桿節は暗色、体表面は一様に粗く細黄灰色毛に覆われる。頭部は密に点刻され、前頭は吻の最狭部と同幅。♂の吻は頭部と前胸を合わせた長さよりも長く、先端近くで曲がり、背面は2対の縦点刻溝と5つの明りような隆起条がある。♀の吻は前頭と角をなして接し、頭部と前胸を合わせた長さと同じかわずかに長い、背面はなめらかで、2対の点刻列は浅く、縦隆起条

も不明りよう。吻は♂♀とも基部で最も幅広く、触角付着点に向かつて狭まる。触角は♂で吻の先端近くに、♀では吻の先から1/3の点につき、触角溝は眼の下半に達する、中間節の第1節は第2節の倍の長さがあり、第6節は長さと同幅、第7節はやや幅広い、球桿部は紡錘状で長さは幅の2倍。前胸は幅広く(7:4.5)、側縁は丸まり、中央で最も幅広い、背面は頭部同様点刻され、前縁の点刻は小さい。小楯板は舌状で幅より長い。翅鞘は肩から後方に向かつてわずかに幅広くなり、中央直後で最大幅になる。前胸腹板前縁は側面まで刺毛があるが、標本の状態が悪いと側面の刺毛は脱落することがある。中基節間突出部は幅よりやや長く、後方に向かつて狭まり、♂♀とも強く膨れ、前方に向かつて張りだす。脛節端突起は♂で1つ、♀で2つある。♂交尾器は先端やや角張り、内袋に小突起群があり、骨片は細長くて基部は太くなっている。

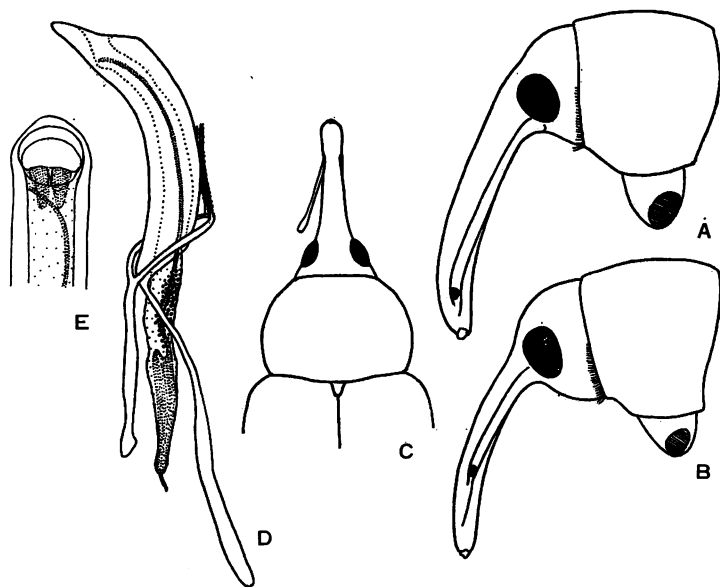
体長: 4.9 ~ 5.2 mm (吻を除く)

分布: 北海道, 本州, 四国, 九州, 中国 (山西省)

調査標本: Ashoro, Hokkaido, 29. VII. 1959, K. MORIMOTO, 1♂1♀; Karuizawa, Nagano, Pref., 12. VII. 1959, K. MORIMOTO, 1♂1♀; Nikko, Tochigi Pref., 11. VII. 1956, S. KIMOTO, 1♂; Ina, Nagano Pref., 18. V. 1962, K. MORIMOTO, 7♂8♀; Daisen, Tottori Pref., 27. V. 1954, S. KIMOTO, 2♂; id., 2. VI. 1955, S. KIMOTO, 3♂1♀; Mt. Ishizuchi, Ehime Pref., 4. VI. 1952, Y. WADA, 2♂; Mt. WAKASUGI, Fukuoka Pref., 29. IV. 1954, K. MORIMOTO, 1♂。

ZUMPT (1933) は FAUST の模式標本を調べ、これに3種が含まれているといっているが、この種の♂♀の組合せを正しく理解できず、♀を別種と考えているようである。

成虫はヤナギ類 *Salix* spp. から採集でき、花芽に産卵する。4 ~ 6月に本州, 四国, 九州で採集した標本は黄褐色であるが、7 ~ 8月に北海道と本州で採集した標本は KONO (1930) が *rufus* として記載



第3図 *E. roelofsi* 前胸と頭部, ♂交尾器

A, B, C: Head and prothorax, dorsal and lateral aspects. (A: ♂; B, C: ♀)

D, E: Aedeagus.

したように赤褐色である。

Kôno (1930) は松村 (大日本害虫全書後篇, p. 206, 1915) が *Erihrinus oryzae* MATSUMURA イネノアカゾウムシとしたものを *roelofsi* として扱っているが, その生態の記述から判断すると, 松村の種は *Echinocnemis* か *Notaris* 属のものであるらしい。

3. *Eteophilus hirtipennis* (BEDEL) ケナガイネゾウモドキ (新称)

Curculio flavipes FABRICIUS (nec Panzer), Syst. Eleuth. II : 490, 1801 (Europe)

Erihrinus flavipes : BOHEMAN, in Schönherr, Gen. Sp. Curc. VII (2) : 173, 1843 (Europe)

Dorytomus flavipes : FAUST, Bull. Soc. Imp. Nat. Moscou VII (IV) : 379, 409 (Sep. : 88, 118), 1882 (Europe)

Eteophilus hirtipennis BEDEL, Ann. Soc. Ent. Fr. (6) IV, Bull. : Cl. 1884 (new name for *flavipes* FABRICIUS)

Dorytomus hirtipennis : FOWLER, Col. Brit. Isl. V : 275, pl. 167, f. 4, 1891 (Europe)

Dorytomus (Euolamus) hirtipennis : REITTER, Fauna Germ. V : 201, 1916 (Europa)——ZUMPT, Ent. Blätt. 29 : 38, 1933 (Europa, Sibirien)

Eteophilus (Enolamus) hirtipennis : HOFFMANN, Faune de France, Curc. : 1447, 1958 (Europe)

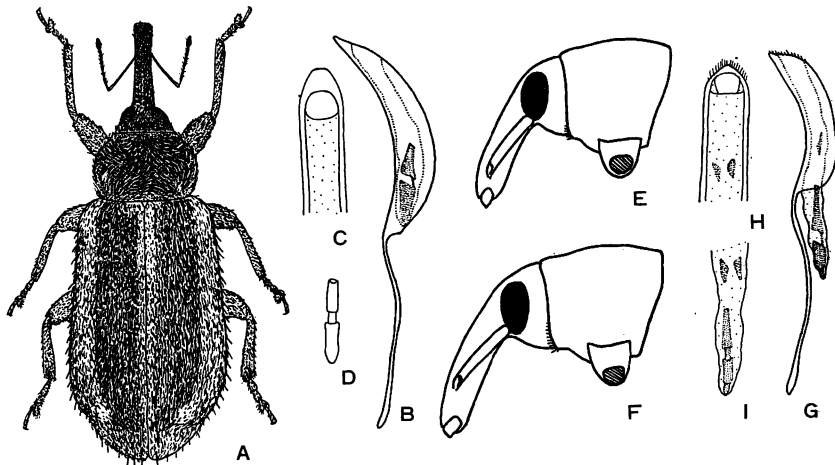
♂♀。体は赤褐色; 頭部, 吻, 前胸背 (前・後縁を除く), 中・後胸腹板, 腹部 (個体により末端部は赤褐色のものがある), および翅鞘の第2~6間室は黒褐色から黒色で, 触角球桿節はやや暗色, 腿節の最大部は個体により暗色のものがある。頭部および前胸背の被毛は針状, 翅鞘は鱗毛と直立刺毛に覆われる, 鱗毛は間室の幅よりやや短く, 直立刺毛は翅鞘の後半部と側縁に発達し, 各間室に1列で, 間室の幅よりやや長い。頭部は密に点刻され, 前頭は吻の最狭部と同幅, 眼の突出は弱く, 上からみた場合頭部の外縁からはほとんど突出しない。♂の吻は頭部と前胸を合わせた長さよりやや短く, わずかに曲がり, 基部と触角付着点の間には明りような点刻溝があり, その間にある隆起条は乱れることはなく, 中央隆起条は触角付着点の間で幅広くなり, その中央は縦に窪む, 吻の先端付近は荒く点刻される。♀の吻は頭部と前胸を合わせた長さと同しく, 背面は♂と同様の構造をもつが点刻は弱く, 先端部は点刻が微細となり光沢が強くなる。吻は♂♀とも中央で少し狭くなる。♂の触角は吻先端からその幅と等しい距離の点につき, ♀の触角は幅の1.5倍離れたところにつく。第1中間節は次の3節を合わせた長さと同しく, 第2節は第3節の1.5倍の長さがある, 第4節は長さと同幅, 第5, 第6節はやや幅広く, 第7節は第6節より太く幅広, 球桿部の長さは幅の2倍。前胸は幅広く (4 : 3), 前縁から1/3の点で最も幅広く, 側縁は丸く, 後縁は前縁よりやや幅広。背面は網目状に点刻され, 前縁の点刻は小さい。中央隆起条はない。小楯板は小さく, 長さと同幅。翅鞘の長さと同幅の比は5 : 3, 先端から1/3の点で最も幅広く, 肩に向かつてわずかに狭まる。前胸腹板前縁の刺毛列は側縁に達する。前基節は前胸腹板の後縁から1/3の点にある。中胸腹板突起は幅よりやや長く, 後方に向かつて狭まり, 強く膨れることはない。腹部の第1~2節中央は窪み, ♂は♀より著しい, 末端節は♂♀とも横に窪む。♂の前腿節は♀より膨れ, 歯状突起も大きい, また♂の前胸節内縁は♀より強く2湾状をしている。♂交尾器は両縁平行で, 開口部より先で狭まり, 先端は小さく裁断され, 毛を欠く。内袋骨片は3つの部分からなる。

体長 : 3.5 ~ 4.0 mm (吻を除く)

分布 : 日本 (本州——新記録), ヨーロッパ, シベリヤ。

調査標本：Kamabuchi, Yamagata Pref. 23. III, 1956, N. ENDA, 2 ♂ 2 ♀ ; id., 14. VIII, 1961, N. ENDA, 7 ♂ 9 ♀。

この種はいままでヨーロッパとシベリヤに分布することが知られていたもので、日本から最初の記録である。ヨーロッパの *hirtipennis* は前胸の形と色彩に地域変異がみられるが (FAUST, 1882), これについての詳細な研究が発表されるまで、前胸背の黒い日本産のものの正しい位置を決定することはできない。この論文では FAUST (1882), ZUMPT (1933) らに従い *hirtipennis* と同定しておいたが、将来学名は変わるかもしれない。成虫はヤナギ類 *Salix* spp. から採集できる。



第4図 *E. hirtipennis* と *etorofuensis*

A—D: *hirtipennis* (B—D: Aedeagus, D: Sclerite of inner sac)

E—I: *etorofuensis* (E: ♂, F: ♀; G—I: Aedeagus)

4. *Eteophilus etorofuensis* (KÔNO) エトロフイネゾウモドキ

Dorytomus (Praelamus) etorofuensis KÔNO, Ins. Mats. X: 56, 1935 (Ins. Etorofu, 2 ♀)

♂ ♀。体は黒色で触角（球桿部は暗色）、肢、前胸の前・後縁、翅鞘縫合線および第5～8間室は赤褐色。大雪山産の1 ♀は翅鞘の第3間室と外縁は黒く、他は赤褐色である。体表面は灰色鱗毛と赤褐色毛に覆われ、灰色鱗毛は翅鞘の赤褐色部に分布し、第5間室先端近くは特に密で、白紋を形成する。頭部は非常に密に点刻される。吻は短く基部から触角付着点に向かつてきわめてわずかに狭まり、触角付着点で多少幅広くなり、それから先は両縁平行、非常に密に点刻され、中央隆起条は明りようでその両側にある隆起条は弱い。触角の中間節の第1節は幅の1.5倍の長さがあり、第2節よりもかなり長い、第3節は長さと幅が等しく、以下の節は幅広い。球桿部は幅の1.8倍の長さがある。前胸は幅広く（7:5）、側縁は一樣に丸まり、前縁のくびれは弱い、中央部で最も幅広く、前縁は後縁よりやや狭い。背面は頭部同様網目状に点刻され、中央隆起条を欠く。小楯板は舌状で、長さと幅は等しい。翅鞘は幅の1.5倍の長さがあり、肩から中央部に向かつてきわめてわずかに広がり、第5間室傾斜部の瘤は弱い。前胸腹板前縁の刺毛列は♂で発達が悪くて側面に達せず、♀では達している（原記載には“am Vorderrand ohne deutliche Wimperhaare”と記してある）。中胸腹板突起は長さと幅が等しく、後方に向かつて狭まり、膨れることはない。腹部末端節は♂ ♀とも中央で横に浅く窪む。♂腿節は♂より強く膨れ、歯状突起も著しい。♂交

尾器は先端で尖り、内袋骨片は3つの部分からなり、中央付近に1対の小さな骨板がある。

体長：2.7～3.2 mm (吻を除く)

分布：千島 (エトロフ島)、北海道、本州。

調査標本：Nukabira, Hokkaido, 22. VII. 1959, K. MORIMOTO, 1 ♀; Kamabuchi, Yamagata Pref., 23. III. 1956, N. ENDA, 1 ♂; Odayama-mura, Fukushima Pref., 22. VI. 1948, Y. KUROSAWA, 1 ♂; Ina, Nagano Pref., 28. V. 1962, K. MORIMOTO, 3 ♂ 2 ♀。

本種は千島列島エトロフ島産の♀により記載されたもので、♂の記載と日本からの記録は初めてである。成虫はいずれもヤナギ類から採集できたものである。

5. *Eteophilus shikotanus* (KÔNO) シコタンイネゾウモドキ

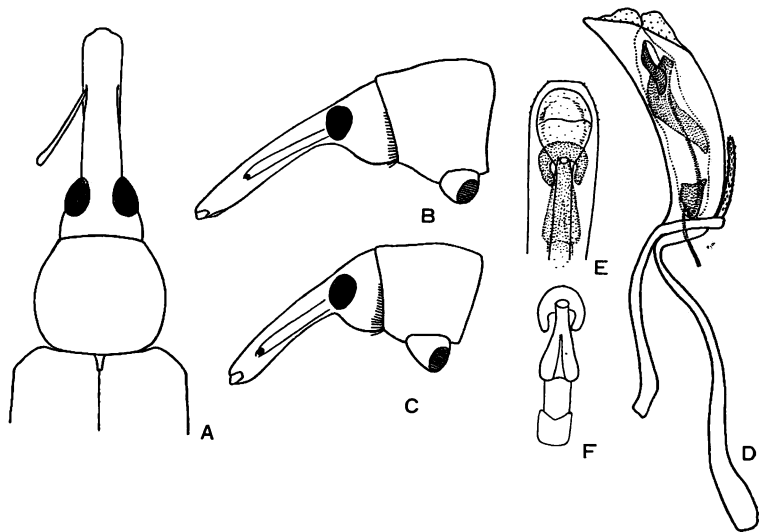
Dorytomus (*Dorytomus*) *shikotanus* KÔNO, Ins. Mats. X: 56, 1935 (Ins. Shikotan, Ins. Etorofu, ♂ ♀)

♂ ♀。本種は色彩と毛の状態が *maculipennis* に酷似しているが、前胸前縁は常に黒い。

頭部は密に点刻され、前頭部は吻基部の半分の幅である。吻は真直ぐで両縁は平行、背面に4点刻列と5隆起条があり、隆起条は乱れることがある。触角中間節の第1節は幅の2.5倍の長さがあり、第2節の倍の長さがある、第4節は長さと同幅で、第5～7の各節はやや幅広い。球桿部の長さは幅の2倍ある。前胸はやや幅広く、側縁は一樣に丸まり、前縁近くにくびれは不明りよう。点刻は網目状を呈し、中央隆起条付近と前縁でやや小さく粗くなる。中央隆起条は不明りよう。小楯板は黒く、幅より少し長い。

翅鞘は肩部から先に向かつてゆるく幅広くなり、先から1/3の点で最大幅に達する、第2～5間室に黒紋が現われたり、黒くなっている個体がある。前胸腹板前縁の刺毛列は側面まで達している。中胸腹板突起は長さと同幅で、後方に向かつて狭くなり、前縁は垂直である。肢は *maculipennis* に似ている。

♂交尾器の先端は裁断され、骨片は3つの部分からなり、開口部骨板は馬蹄形。



第5図 *E. shikotanus* の前胸と頭部、♂交尾器

A—C: Head and pronotum, dorsal, and lateral aspects.

B: ♀, C: ♂. D—F: Aedeagus (F: Sclerites).

体長：3.5～4.0 mm (吻を除く)

分布：千島列島（シコタン島，エトロフ島），北海道（阿寒国立公園）

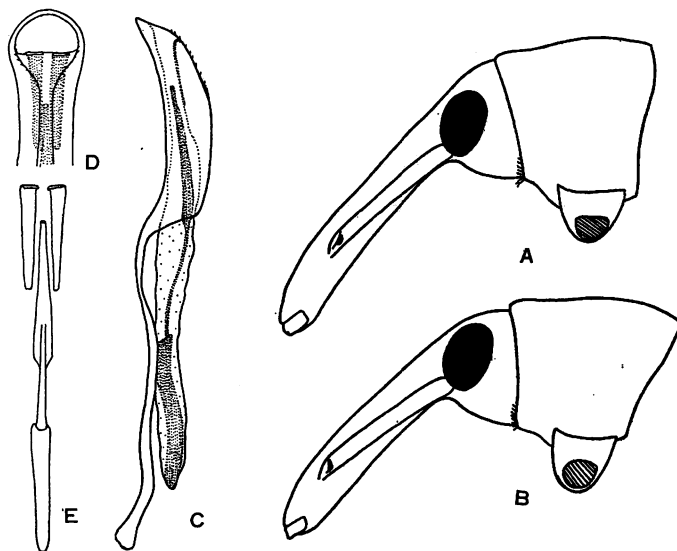
調査標本：Ashoro, Hokkaido, 23 & 27. V. 1957, M. TAKAHASHI, 2 ♂ 2 ♀ ; id., 29. VII. 1959, K. MORIMOTO, 2 ♂ 5 ♀ ; Nukabira, Hokkaido, 22. VII. 1959, K. Morimoto, 1 ♀ ; Osappe, Hokkaido, 5. VI. 1957, M. TAKAHASHI, 1 ♂

この種は吻が真直ぐなことで、前胸の形で他の種から容易に区別できる。1957年7月末に森本は北海道足寄町螺湾で採集したが、川岸のヤナギ類から採集される *Eteophilus* はほとんどが *shikotanus* で一部が *roelofsi* であった。

6. *Eteophilus rectinasus* MORIMOTO et ENDA, sp. nov. ヤナギイネゾウモドキ (新称)

この種は見たところ *roelofsi* に似ているが、吻が両縁平行なこと、前頭部が狭いこと、中胸腹板突起の膨れ方が弱いこと、♂交尾器の内袋に小突起群を欠くことで区別できる。

前胸腹板前縁の刺毛は側面での発達が悪く、*Praeolamus* 亜属に含めることができる。



第6図 *E. rectinasus* の頭部と♂交尾器

A, B: Head and pronotum; A: ♀, B: ♂. C—E: Aedeagus (E: Sclerites)

Black; anterior and posterior margins of pronotum, antennae and legs reddish brown; elytra reddish brown, lateral margin black and dorsal area between 5th intervals variegated with black patches. Derm sparsely clothed with greyish hairy setae, which are closer on subapical swellings of elytra.

Head closely punctured, frons between eyes half as broad as the base of rostrum; rostrum straight, as long as (♂) or a little longer than (♀) head and pronotum taken together, parallel-sided, with three pairs of punctured striae and five keels from base to the antennal insertion; antennae inserted into one-third from apex, scape slender, clubbed at tip, 1st segment of funicle 2.5 times as long as wide and twice as long as the 2nd, 3rd~7th segments

subequal in length to each other, each of the 3rd and 4th segments as long as wide and 5th~7th segments transverse, club as long as the two basal segments of funicle taken together.

Pronotum transverse (5:4), broadest a little before the middle, anterior margin slightly narrower than the posterior one, disk closely punctured just as the same manner as *roelofsi*, punctures on the anterior margin smaller.

Scutellum narrow, twice as long as wide, punctate.

Elytra much longer than wide (8:5), subparallel from humeri as far as one-third from apex, intervals nearly flat.

Prosternum narrower than a coxa, anterior margin fringed with setae and they are less developed on side; mesosternal process trapezoidal, weakly narrowed posteriorly, less convex, not produced anteriorly.

Femora with a small triangular tooth; tibiae straight, front tibiae with the same width throughout, posterior tibiae slightly widened towards the tip.

Aedeagus with the inner sac of penis adorned with a long fragellum.

Length: 4.0 ~ 5.3 mm (excluding rostrum).

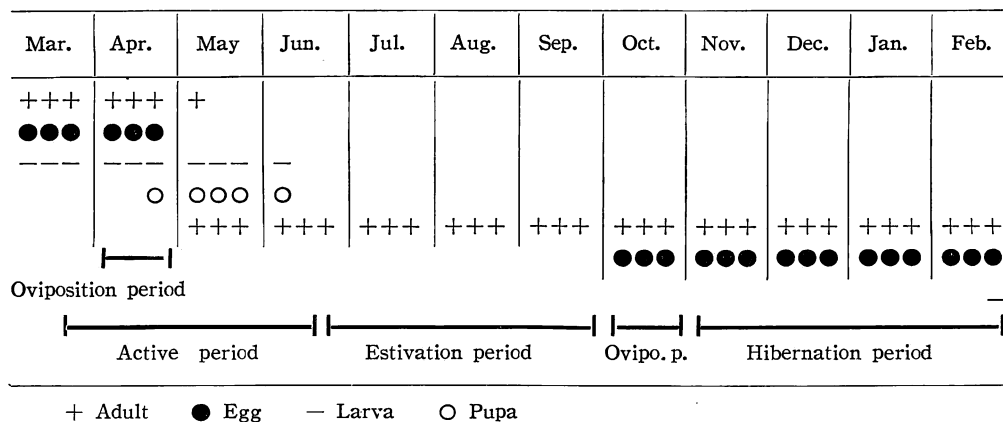
Holotype ♂. Kamabuchi, Yamagata Pref. 23. III. 1956, N. ENDA leg. Paratypes: same data as holotype 9 ♂ 10 ♀; Mayasan, Kobe, 12. V. 1952, Y. WADA leg., 2 ♂. Holo- and 6 paratypes are preserved in the collection of the Entomological Laboratory of Kyushu University, the remaining paratypes are in the Entomological Laboratory of Ehime University, Entomological Laboratory of Hokkaido University and the authors' cabinets.

This species may be separable from *E. occalescens* (GYLLENHAL) by the costate rostrum, from *E. dejeani* (FAUST) by the straight rostrum and smaller size, and from *E. taeniatius* (FABRICIUS) by the longer 1st segment of funicle. This is also close to *E. roelofsi* (FAUST) in general shape, but may be separable from it by the parallel-sided rostrum, narrower frons, less convex mesosternal process and inner sac of penis not adorned with spines.

経過習性: 遠田は1956年3月山形県真室川町釜淵で川岸に自生するシロヤナギ *Salix jesoensis* の粗皮下から多数の成虫を採集した。年1回の発生で、成虫と卵で越冬する。卵はカワヤナギ *Salix gracilistyla* の花芽の綿毛内で越冬し、成虫は粗皮下や地被物中で越冬するが、カワヤナギに比べて粗皮の多いシロヤナギは越冬に好適所のようなのである。成虫は3月下旬ごろから活動をはじめ産卵し、卵越冬のものは早いものでは2月中旬ごろから孵化し、幼虫は花穂の髓を食して成長する。

寄生を受けた花は結実することなく、4月下旬ごろから落下し、髓の中で十分成熟した幼虫は土中浅く潜入して蛹化し、5月上旬ごろから新しい成虫が出現し、ヤナギ類の新葉を網目状に食害する。夏季には付近のシロヤナギ粗皮下などで夏眠し、10月ふたたび出現しカワヤナギ花芽の苞に直径0.4~0.6 mmの産卵孔をつくり、1芽に1~6粒産卵する。

加害植物: 成虫はカワヤナギ (*Salix gracilistyla*) に多く、シロヤナギ (*S. jesoensis*)、コゴメヤナギ (*S. serissaefolia*)、ハツコヤナギ (*S. Bakko*) 等の葉も食するが繁殖はカワヤナギに限られている。

第 7 図 *E. rectinasus* の周年経過 (Annual life cycle of *E. rectinasus*)

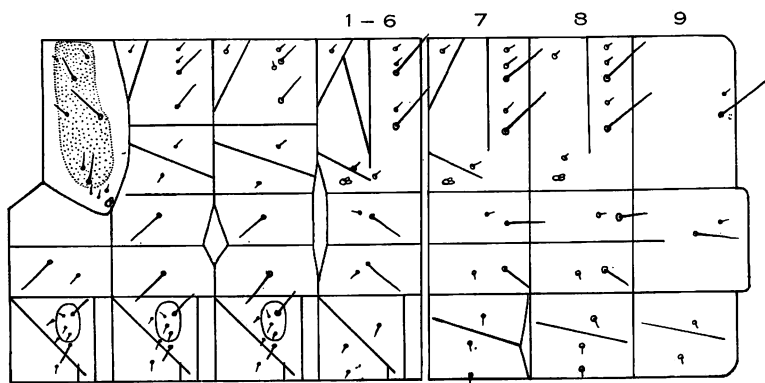
老熟幼虫の記載 (用語は ANDERSON, 1947 による)

頭部は自由で褐色、長さより幅広く、中央直後で最大幅となる。単眼は 2 対。触角は膜状部の上に円錐形の節があり、4 短刺毛と 2 感覚孔が膜状部にある。Hypopharyngeal bracon は明りよう。前頭縫合線は完全で、先端は触角に終わる。頭蓋縫合線は頭部の 2/5 の長さがあり、endocarina は前頭の 3/5 の長さがある。前頭の fs 4 は fs 5 よりはるかに長い。頭蓋背面には 5 対の刺毛があり、des 4 は短い。頭蓋腹面刺毛は 2 対で短い。後頭部感覚孔は 6 対。頭楯の刺毛は 2 対で感覚孔は cls 1 に近い。上唇前縁は中央で弱く突出し、刺毛は 3 対で lms 2 は長く、lms 3 は短い。上咽頭の中央刺毛は 2 対で短く、前縁中央部刺毛は 2 対、側部刺毛は 3 対、上唇帯は後方互いに接近する。

大顎は 2 歯があり、内縁中央は角張る。前基節骨板は中央で前後に突出し、感覚孔は 2 対、前基節刺毛は 3 対、感覚孔は 2 対。

後基節刺毛は 3 対で pms 2 は長い。小腮鬚は 2 対、第 1 節には 2 感覚孔と 1 刺毛がある。mala には上面に 5、下面に 6 刺毛がある。

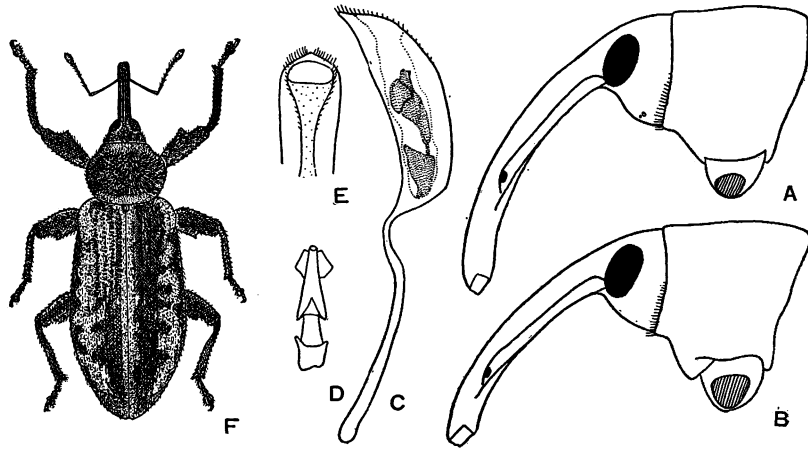
前胸背面には弱い骨化板があり、刺毛は 10 対。胸部と腹部の刺毛は模式図に示したとおりである。第 10 節は 5 瘤からなる。気門には 2 つの空気囊があり、周気門輪は丸い。



第 8 図 *E. rectinasus* 老熟幼虫の刺毛図
(Setal map of the mature larva)

7. *Eteophilus urakoe* MORIMOTO et ENDA, sp. nov. ポプルスイネゾウモドキ (新称)

この種は *maculipennis* に酷似するが、次の点で区別できる。1) 体色は黒味が強い。2) 吻は♂♀とも曲がる。3) ♀の触角は吻の中央直前につく。4) 中胸腹板突起は強く膨れ、前方に張り出す。5) ♂交尾器は先端で尖る。6) 加害植物はヤナギ属でなくヤマナラシである。

第9図 *E. urakoe* の♂, 頭部および交尾器

A, B: Head and pronotum (A: ♀, B: ♂). C, D, E: Aedeagus (D: Sclerites). F: ♂.

Black; anterior and posterior margins of pronotum, margins of elytra, zig-zag stripe on the 5th~7th intervals of elytra, antennae, terminal segment of abdomen reddish brown. Derm sparsely clothed with greyish and brownish hairy setae and variegated on elytra, greyish setae are closer on subapical swellings of elytra.

Head and rostrum lying on a same plane in lateral aspect, closely punctured; frons between eyes half as broad as the base of rostrum, with a shallow median depression, more or less closely haired above eyes; rostrum a little longer than head and pronotum taken together, parallel-sided, gently curved, with three pairs of punctured striae and five distinct keels from the base to the apex; antennae inserted into the apical one-third (♂) or a little before the middle (♀) of rostrum, scape slender and clubbed at tip, 1st segment of funicle three times as long as wide and twice as long as the 2nd, 2nd segment parallel-sided and slightly longer than the 3rd, 4th segment a little shorter than the 3rd and slightly longer than the 5th, 5th and 6th with the same length to each other, 7th segment a little larger than the 6th, club navicular, nearly as long as the three basal segments of funicle taken together.

Pronotum transverse (5:7), broadest just before the middle, anterior and posterior margins with the same width to each other, disk reticulately punctured, punctures are smaller at the anterior margin.

Scutellum longer than wide, tongue-shaped, glossy.

Elytra nearly twice as long wide, broadest a little behind the middle, intervals nearly flat.

Prosterum before coxae a little narrower than a coxa; mesosternal process trapezoidal, strongly convex and strongly produced anteriorly.

Femora adorned with a triangular tooth respectively, front femora much larger than the posteriors. Tibiae slender, the inner margin slightly bisinuate.

Aedeagus with the inner sac of penis bearing similar sclerites to those of *shikotanus* or *maculipennis*, but the apex of penis is bluntly pointed.

Length: 3.5 ~ 5.1 mm (excluding rostrum).

Holotype ♂, paratypes 9 ♂ 10 ♀, Kamabuchi, Yamagata Pref., 20. III. 1961. N. ENDA leg. Types are preserved in the collections of the Entomological Laboratory of Kyushu University, Entomological Laboratory of Ehime University, Entomological Laboratory of Hokkaido University and the authors' cabinets. The name of this new species is dedicated to the wife of junior author, who was so kind as to help him in his investigation of this new species at Kamabuchi in 1955~56.

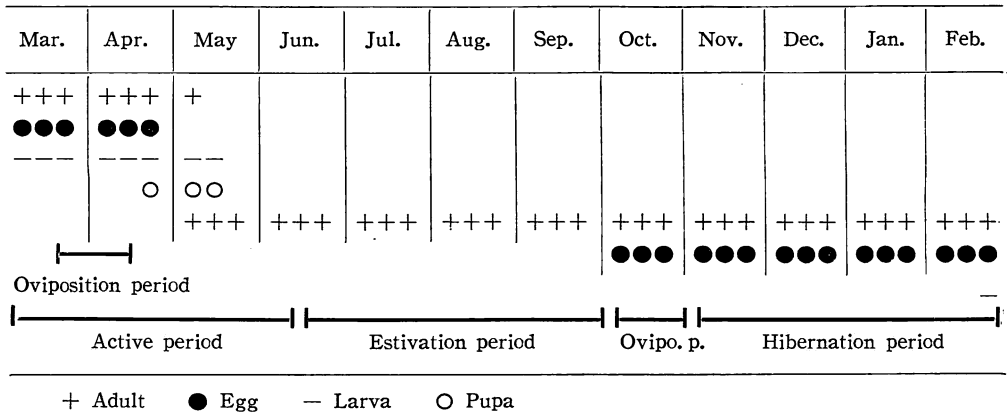
This species is very close to *E. maculipennis* (ROELOFS), but may be separable from it by the characters noted in the following table.

	<i>urakoe</i>	<i>maculipennis</i>
General coloration	black	brown
Rostrum	gently curved in both sexes	nearly straight in female
Insertion of female antennae to rostrum	a little before the middle	one-third of rostrum from apex
Mesosternal process	strongly convex and produced anteriorly in both sexes	less strongly convex and not produced anteriorly in female
Penis	bluntly pointed at tip	truncate at tip
Host plant	<i>Populus glandulosa</i>	<i>Salix</i> spp.

経過習性：遠田は最初 1955 年 3 月，山形県真室川釜淵，林業試験場山形分場（前釜淵分場）構内に植栽してあるヤマナラシ *Populus glandulosa* の幹枝上を徘徊している成虫を多数採集し，その後の調査でヤマナラシの花や新葉を食害することを確認した。

本種は年 1 回の発生で，成虫と卵で越冬する。卵はヤマナラシの花芽の中で越冬し，成虫は粗皮間，裂け目などに潜入して越冬する。成虫は翌春ヤマナラシ類が開花する 3 月上旬ごろから活動をはじめが，この時期には調査地山形県釜淵では平均 50 ~ 100 cm の積雪があり，樹幹上でも日当たりのよい面に多く集まり活発に徘徊，交尾を行なうが，気温の低下とともに行動もにぶくなり，樹皮の裂け目などに入り，多くは頭部を根元にむけて静止する。樹幹を振り動かすと容易に雪面に落下するが，幹から 2 ~ 3 m 離れていてもふたたび寄生する。卵は前年の 10 月に産卵するのが普通であるが，翌春の 3 ~ 4 月に産卵する個体もあり，1 ♀の抱卵数は 4 ~ 11 粒である。

卵越冬のものは 2 月中旬ごろから孵化し，幼虫は花穂の髓を食して成長し，落花とともに老熟幼虫は土中 5 ~ 10 mm の深さに潜入し，4 月下旬ごろから土中で蛹化し，次いで成虫となる。新成虫は地表面に直径 1.5 mm 内外の脱出孔をつくつて匍いだし，ヤマナラシの新葉に飛来し，網目状に食害する。これらの新成虫は 6 月中旬ごろから個体数が少なくなり，夏季には粗皮下や地被物中で夏眠し，10 月ふたたび出現してヤマナラシの花芽に直径 0.5 mm 内外の産卵孔をつくり，綿毛の間に 1 ~ 2 粒産卵する。

第10図 *E. urakoe* の周年経過 (Annual life cycle of *E. urakoe*)

加害植物：成虫はスイゲンヤマナラシ *Populus glandulosa*, ヤマナラシ *P. sieboldii* などに多く寄生し、ギンドロ *P. alba*, ドロ *P. maximowiczii*, チョウセンヤマナラシ *P. davidiana*, モニリヘラヤマナラシ *P. monilifera*, その他のポプラ類もいくらか加害するが、繁殖はスイゲンヤマナラシに限られているようである。

老熟幼虫：幼虫は *rectinasus* に酷似するが、大顎の第3歯が発達することにより区別できる。

8. *Eteophilus maculipennis* (ROELOFS) モンイネゾウモドキ

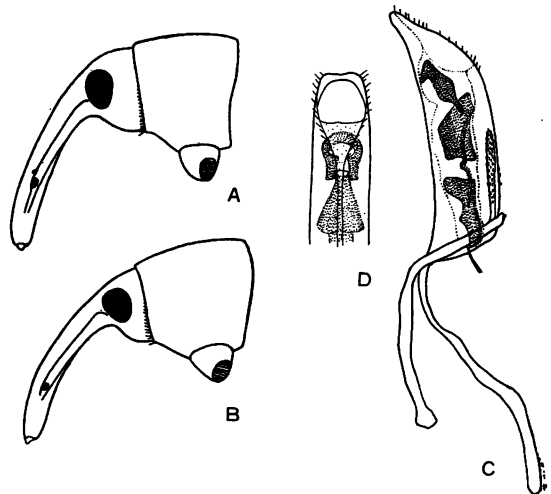
Dorytomus maculipennis ROELOFS, Ann. Soc. Ent. Belg. XVIII : 124, 1874 (Nagasaki)

Dorytomus maculipennis : FAUST, Bull. Mosc. : 93, 143, 1883 (Key, redescription, Japan, ♀)

Dorytomus maculipennis : Kôno, Ins. Mats. IV : 155, 156, 1930 (Key, Honshu, Kyushu)

♂♀。赤褐色，頭部，吻および中・後胸腹板は暗褐色，個体により前胸中央部が黒くなり，また翅鞘が黒斑によりまだら状をなす。体表面は灰色毛および灰褐色毛による不明りような斑紋があり，前胸側縁基部と翅鞘肩部はやや密に，翅鞘第2間室基部は非常に密に灰色毛をもつ。頭部は密に点刻され，前頭部は吻よりも幅狭く，中央に小凹陷がある。♂の吻は頭部と前胸を合わせた長さで等しく，♀ではそれよりやや長い。吻はゆるく曲がり，♂♀とも基部と触角付着点の間は2対の点刻溝と5本の明りような隆起条がある。触角中間節の第1節は次の2節を合わせた長さで等しい。第4節は長さで幅が等しく，第5～第7の各節はやや幅広い。球桿節は黒色味をおび，長さは幅の1.6倍である。

前胸背は幅広く(4:3)，側縁は一様に丸まり。中央直後で最大幅になり，前縁近くで急にくびれる。背面は密に点刻され，中央に弱い隆起条がある。小楯板は正方形で，一般にやや暗色である。翅鞘は肩部か



第11図 *E. maculipennis* の頭部と前胸，♂交尾器
A, B : Head and prothorax (A : ♀, B : ♂).
C, D : Aedeagus.

ら後方に向かつてわずかに幅広くなり、中央付近で最大幅になる。前胸腹板前縁は側面まで刺毛がある。中胸腹板突起は長さと同幅が等しく、後方に向かつてわずかに狭まり、その膨れる強さには相当の変異があり、♂の強く膨れた個体では前縁が垂直をなし、また多少前に張りだすものまである。♂の腿節と歯状突起は♀よりやや太く、前脛節端には2突起があり、後脛節端突起も前脛節とほとんど同じである。♂交尾器の先端は裁断され、中央は浅く窪み、開口部周辺に毛がある、内袋骨片は3つの部分からなり、開口部骨板は馬蹄状。

体長：4.0～4.8 mm (吻を除く)

分布：本州、四国、九州。

調査標本：本種は西南日本に最も普通の種で、次の産地から採集された65頭の標本を調べた。Nagasaki City; Mt. Hiko, Mt. Sefuri, Mt. Wakasugi, Fukuoka Pref.; Mt. Kujū & Mt. Sobo, Ōita Pref.; Tasayama, Kōch Pref.; Uetsuno, Tokushima Pref.; Todai, Kamikōchi & Shirahone, Nagano Pref.; Yumoto, Tochigi Pref.; Kamabuchi, Yamagata Pref.; Yunomata, Aomori Pref.

四国と九州のヤナギ類 *Salix* spp. から採集できる *Eteophilus* はほとんどが本種で、一部は *roelofsii* である。

文 献

- 中条道夫・森本 桂：馬場金太郎博士採集の新潟県産象鼻虫類，市立長岡科学博物館館報，(1957) pp. 24乃至40；(1959) pp. 11～12；(1960) pp. 16～18.
- 森本 桂：ゾウムシ科，彦山昆虫目録 II，翅鞘目，(1959) pp. 78～87.
- ANDERSON, W. H. : A terminology for the anatomical characters useful in the taxonomy of weevil larvae. Proc. Ent. Soc. Washington 49, (1941) pp. 123～132.
- BLATCHLEY, W.S. & LENG, C.W. : Rhynchophora or weevils of north east America, (1916) 682 pp.
- CHUJŌ, M. & VOSS, E. : Neue Curculionides-Subfamilie, -Gattungen und -Arten von Japan. Mem. Fac. Liberal Arts & Education, Kagawa Univ. II (94), (1960) pp. 1～17.
- FAUST, J. : Die europäischen und asiatischen Arten der Gattungen *Erirhinus*, *Notaris*, *Icaris* und *Dorytomus*. Bull. Soc. Nat. Moscou LXII (IV), (1882) pp. 368～468.
- HOFFMANN, A. : Faune de France, Coléoptères Curculionides (3^e), (1958) pp. 1209～1840.
- KŌNO, H. : Langrüssler aus dem Japanischen Reich. Ins. Mats. IV, (1930) pp. 146～162.
- KŌNO, H. : Die Rüsselkäfer aus den Kurilen. I, II. Ins. Mats. IX, (1935) pp. 99～107 ; X, (1935) pp. 53～63.
- KŌNO, H. & MORIMOTO, K. : Curculionidae from Shansi, North China. Mushi 34, (1960) pp. 71～87.
- LEWIS, G. : A catalogue of Coleoptera from Japanese Archipelago, (1879) 31 pp.
- KLIMA, A. : Coleopterorum Catalogus, pars 140 Erirrhinae (1934), 107 pp.
- REITTER, E. : Fauna Germanica, Käfer V, (1916) 343 pp.
- ROELOFS, W. : Curculionides recueillis au Japon par M. G. Lewis. Ann. Soc. ent. Belg. XVII, (1874) pp. 121～176.
- SCHÖNFELDT, W. : Catalog der Coleopteren von Japan mit Angabe der bezüglichen Beschreibungen und der sicher bekannten Fundorte. Jahrb. Nass. Vereins Naturk. 40, (188) 274 pp.
- WINKLER, A. : Catalogus Coleopterorum regionis palaearcae. (1932) 1698 pp.
- ZUMPT, F. : Ein neuer *Dorytomus* aus der *hirtipennis*-Gruppe. Ent. Blätt. 29, (1933) pp. 36～38.
- ZUMPT, F. : Bestimmungstabellen der Subgenera *Dorytomus* s. str. und *Paradorytomus* Zpt. nebst

Beschreibungen neuer Paläarktischen Arten. Kol. Rdsch. 19, (1933) pp.81 ~ 105.

図版説明 (Explanation of plates)

Plate 1. *Eteophilus rectinasus* MORIMOTO et ENDA

A, B: カワヤナギの花芽にみられる *E. rectinasus* の産卵孔

Oviposition holes of *Eteophilus rectinasus* on the flower-bud of *Salix gracilistyla*.

C, D: 花芽内の卵 (1.4 × 0.8 mm)

Egg in the flower-bud of *Salix gracilistyla* (1.4 × 0.8 mm in size).

E: 卵と若齢幼虫

Egg (top) and young larva (bottom).

F: カワヤナギ花穂内の老熟幼虫

Mature larva in the flower-spike of *Salix gracilistyla*.

Plate 2. *Eteophilus urakoe* MORIMOTO et ENDA.

A, B: スイゲンヤマナラシの花芽にみられる *E. urakoe* の産卵孔

Oviposition hole of *Eteophilus urakoe* on the flower-bud of *Populus glandulosa*.

C, D: 花芽内の卵 (1.1 × 0.8 mm)

Egg in the flower-bud of *Populus glandulosa* (1.1 × 0.8 mm in size).

E: スイゲンヤマナラシ花穂内の老熟幼虫

Mature larva in the flower-spike of *Populus glandulosa*.

F: 土中の蛹 Pupa.

G: 土中の新成虫 Immature adult.

Plate 3. *Eteophilus rectinasus* と *E. urakoe*.

A: *E. rectinasus* 成虫 Adults of *E. rectinasus*.

B: *E. rectinasus* の成虫によるカワヤナギの被害葉。

Salix gracilistyla injured by the weevils of *E. rectinasus*.

C: *E. urakoe* 成虫 Adults of *E. urakoe*.

D: *E. urakoe* の成虫によるスイゲンヤマナラシの被害葉

Populus glandulosa injured by the weevils of *E. urakoe*.

Plate 4. 幼虫と蛹 Mature larva and pupa.

A~H: *Eteophilus rectinasus*.

I~J: *Eteophilus urakoe*.

A: 小腸先端部 Maxillary palp and mala.

B: 下唇 Labium.

C: 腹部第1気門 First spiracle on abdomen.

D: 頭部, 背面と腹面図 Head, dorsal and ventral aspects

E: 左触角 Left antenna.

F: 頭楯と上唇(右)と上咽腔(左)

Clypeus and labrum (right), epipharynx (left).

G: 肛門 Terminal segments of abdomen, caudal aspect.

H: 老熟幼虫 Matured larva.

I: 右大腿 Right mandible.

J: 蛹, 背面と腹面図 Pupa, dorsal and ventral aspects.

**Taxonomic and Biological Studies on
the Genus *Eteophilus* from Japan.
(Coleoptera Curculionidae).**

Katsura MORIMOTO and Nobuo ENDA

(Résumé)

Eteophilus (= *Dorytomus*) is a genus of Curculionidae comprising 76 species from Palaearctic and Nearctic regions. They were classified into the following four subgenera by ZUMPT, 1933, HOFFMAN, 1958, etc.

Paradorytomus ZUMPT, 1933. *Euolamus* REITTER, 1916 (= *Enolamus* HOFFMAN, 1958). *Praeolamus* ZUMPT, 1933. *Eteophilus* s. str. (= *Dorytomus* s. str.)

Among the Japanese species of the genus, setal arrangement of the anterior margin of prosternum may be regarded as an unstable and often sexually dimorphic character. Our present investigations reveal that this genus may better be subdivided into the following three groups:

- 1 : *notaroides*-group. Front tibiae uncinata in both sexes. Penis with inner sac hirsute. Rostrum, antennae, pronotum and legs sexually dimorphic.
- 2 : *roelofsi*-group. Male front tibiae uncinata, female front tibiae uncinata and mucronate. Penis with inner sac adorned with small spines, flagellum very long.
- 3 : *maculipennis-hirtipennis*-group. Front tibiae uncinata and mucronate in both sexes. Penis with inner sac without setae or spines, flagellum composed of three parts.

Host plants of the species of the genus are enumerated in Table 1.

Annual life cycles of *Eteophilus rectinasus* and *E. urakoe* are as shown in Figs. 7 and 10.

Key to Japanese species of the genus *Eteophilus*.

- 1 : Male pronotum much broader than elytra. Front tibiae uncinata in both sexes. Rostrum punctured, but neither sulcate nor costate. Length : 6.0 ~ 6.5 (♀), 7.0 ~ 7.5 (♂) mm..... *E. notaroides* (KôNO)
- 1' : Pronotum with the same shape in both sexes and narrower than elytra. Rostrum punctured-striate or costate. Body smaller than 6 mm in length 2
- 2 : Elytra clothed with scaly hairs only 3
- 2' : Elytra clothed with scaly hairs and suberect setae. Length : 3.5 ~ 4.0 mm *E. hirtipennis* (BEDEL)
- 3 : Rostrum becoming narrower from the base to the antennal insertions, the narrowest portion as broad as frons. Male rostrum continuous to frons in the same plane, female rostrum weakly angulate to frons. Derm sparsely clothed with hairs and immaculate. Yellowish brown to reddish brown, with dark metasternum and antennal club. Mesosternal process strongly convex and produced anteriorly. Length : 5 mm..... *E. roelofsi* (FAUST)
- 3' : Rostrum parallel-sided, broader than frons. Elytra mottled with hairy spots 4
- 4 : Antennae with the first segment of funicle 1.5 times as long as wide. Rostrum much shorter than pronotum and head taken together in both sexes. Length: 2.7 ~ 3.2 mm *E. etorofuensis* (KôNO)
- 4' : Antennae with the first segment of funicle more than twice as long as wide. Body longer than 3.5 mm in length 5
- 5 : Rostrum shorter than head and pronotum taken together, straight. Anterior surface of mesosternal process perpendicular. Length : 3.5 ~ 4.0 mm *E. shikotanus* (KôNO)

- 5' : Rostrum at least in female longer than head and pronotum taken together 6
- 6 : Rostrum scarcely curved, directing anteriorly. Mesosternal process not convex. Length : 4.0
~ 5.3 mm *E. rectinasus* MORIMOTO et ENDA, n. sp.
- 6' : Rostrum curved, directing downwards. Mesosternal process strongly convex and more or
less produced anteriorly at least in male 7
- 7 : Mesosternal process strongly convex and strongly produced anteriorly. Body black with brown
patches. Length : 3.5 ~ 5.1 mm *E. urakoe* MORIMOTO et ENDA, n. sp.
- 7' : Mesosternal process not convex in female, anterior margin perpendicular in male. Body
brown with black patches. Length: 4.0 ~ 4.8 mm *E. maculipennis* (ROELOFS)

